

JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 5,6,7月号

ジャパン・ツディ編集部 村井実・編集長 ①160-0004 東京都新宿区四谷4の6の1 四谷サンハイツ1205号
ジャパン・ツディは朝日、毎日、読売、産経、東京、日経、NHKにない独自の視点で解説。

日本政治は東京の山手循環線

その心は同じ円を回って進歩なし

サークル

直近の国会をみると、麻生財務相兼金融相に対する不信任決議案と内閣不信任案が衆参院で自民、公明、維新などの反対多数で否決(6・21)された。

野党が麻生財務相を吊しあげたのは、老後の生活費が2千万円不足とした金融庁の審議会報告書の受け取りを拒否したからだ。

目前に参院選が迫っており、国民がいちばん高い生活費・年金をつけれないから、安倍政権に不利に働くという同報告書をなかつたことだ。この瞬間、衆参同時選挙は消えた。

そのあと、同24日には首相問責決議案、25日には内閣不信任案が国会に提出されるだろうが、今の自公の圧倒的多数の国会の議席の前では野党は風前の灯で「否決」される。それよりも野党は問責決議案、不信任案を出して衆院解散でもされたらどうしよう—とあわてふためいていた景色は笑っちゃう。「家政婦は見えていなかった」かもしれぬが、有権者は見えていた。

間もなくやってくる7月参院選の前で、野党は自民党に対して「かく戦った」という国民有権者向けの実績作りを見せたい茶番劇。国民はこの水田町芝居にあきまきしている。

私の主張のような野党批判をするマスコミは少ないかもしれないが、橋下徹・元大阪市長は彼の著書「政権奪取論」(朝日新書、

890円)の中で、私と同じような意見を述べている。圧倒的自民議席の中での問責決議案や内閣不信任案の提出は形式的であり、時間かせぎ、選挙前の人気取り程度にしかみられない。見出しのタイトル、東京の山手線よろしく、進歩なしだ。1日の国会開会費は3億円だ。

本来であれば、今の日本の現状では、国民の求める年金、憲法、消費税を国会討論の中心にして欲しいところだが、圧倒的多数の議席を持つ自公は野党も国民もバカにして「国会議事堂不要論」を叫んでいるに等しい。私は以前から大声をあげているが、国民から見れば与野党とも全く「税金ドロボー」である。

私が現役の国会記者時代、国会閉会日に三木武夫首相が衆参院本会議場で「禁止令」(国会からの外出禁止)をかけて、時計を翌日の真夜中、午前2時でも前日の12時という魔法の時刻に止めて塩、タバコの値上げ法案を通したことが、今となっては懐かしい。

この背景には自民党の三木内閣の地盤弱く、与野党がぎょぎょしていた緊迫した中での法案を通そうとしたから「禁止令」まで飛び出したのである。

野党の弱さが日本政治の劣化を招く。そこで頭ごなしに野党に苦言を申しあげると、自民

党批判の前に、野党の弱さこそが、今の日本政治の根本的な問題と指摘したい。森友、加計問題では安倍政権は「適切に対応した」は13%、「対応していない」は75%という世論調査(朝日)が出ています。こんなことは小学生まで政治、政治家を信用していない。テレビ時代だから。

シリアン・コントロー(文民統制)にしても、参院の定数6増も政権転落しない—という自民の驕りから出ている。こうした劣化した水田町政治から、優秀な議員が閣僚群は平気でウソをつき、国民を騙すものもなっこなっている。

なぜ、こういう現象が起きているのかというと、安倍内閣の下、日本政治は政権交代はあり得ないから、官僚は今の野党に付度したり、おべっかを使う必要性がない。従って公務員であることとを忘れて、自分の出世道を歩むのが得策となる。

最近の厚生省に関する統計問題のデタラメぶりも、政権交代のないことに、ふんぞり返って役人のタラカぶりには目もくれず、国民にとつてこれほど不幸なことはない。

なぜ、野党の存在価値なく、国民から見放されたかという、中選挙区制から小選挙区制の導入(党公認が官邸主導で首相の意のまま)の今さら共産、社会主義に国民は寄りつかない。むしろ若者は自民寄り(4野党

がいっまでも連合の愛人になっていては政権は取れない)日本人は土着思想だから、御用組合、労組になじまず、保守が地盤とする自治体活動、祭、町村の行事に日常参加しなければ自民を倒せない。

一方、自民党の権力争いもあるが、それ以上に各野党間の「国の政助成金(約300億円)の奪い合い」は表に出ないが、ドロドロとした代理戦争をしている。だから、選挙後の空白期に野党連合をやらなければならぬのに、その野党連合は全く進まず、まさに芋芸会か児童会やる気なし。

安倍政権以来、野党は「俺が俺」のお山の大将争い。野党では小沢(一郎)以外に、まとめられる人材はいないのに…無駄な抵抗に私は、いつもウンザリして外野席から眺めている。田中角栄首相は私に当時、言ったものだ。「民主主義は数だ。多数決を取れない野党は、野党に転落する。野党になれば、たとえ予算の1円だって動かさない。」

右の名言を今の野党にフレンツトしたい。ふがいない野党を諦め自民党を倒して大政変に!選挙直前になって野党は「にわか合流」をして選挙戦に突入して行くが、にわか合流は「にわか政策」である(今さら共産、社会主義に国民は見破っている)。

各野党が一致点を見出して、どんな国家にするのか、どんな社会を作りたいのか。立憲民主、国民民主、共産党などにオーソドックスな日本の将来の骨格を見せてほしい。

自民も同じようなものだが、自民はまだ党としてまとまる一体感がある。野党はバラバラだから、有権者もバラバラとなる!!

だから、この世論調査でも自民党しかないから「期待できる野党がない」などの意見が上位を占め、国民の目は辛辣(しんらつ)である。


参院選直前のこの期(機)に及んでも、世論では自民40%をトップに、立憲民主、国民民主、公明、共産、維新など、どれもこれも一桁台というおまじろ君!これでは参院選であっても総選挙であっても野党は勝てない。政権交代なんて夢の夢。

となれば、日本が政権交代できる環境は今の自民党を倒して大政変にするのが現実的だ、という声も出はしている。私も今の野党のデイトラックを見ていると、自民の大分制による大政変に大賛成である。死ぬまでに、もう一度大政変の夢をみたい。

そこで文中の「政権奪取論」でも橋下徹君が述べていることだが、アメリカのように日本の野党も予備選をやって、はじ上げてきた者を統一野党の首相候補にする手もある。私は、この橋下案を高く評価している。 月24日 村井実

る。しよせん野党の政策に、それほど違はないのだから...。 厳しい世界情勢の中、日本風船は吹く飛んでいく

黒川泰子
銀座シグナスマンズリーライブ
日時 2019年8月23日(金)
9月20日(金)
10月25日(金)
開場 19:00
開演 19:30 ~ 21:00 (入替なし)
ミュージックチャージ ¥5,000+チャーム代
中央区銀座カレラ式番館ビル B2F
TEL: 03-3289-0986



国立音楽大学声楽科卒業 日仏文化交流功労賞(エディット・ピアフ賞)受賞。サッチャー元英国首相歓迎レセプションにソロ出演。フランス、アメリカ、カナダ、中国等海外公演多数。六本木、赤坂、銀座シグナス、マキシム等マンズリーライブ開催。京王プラザホテル15年連続クリスマスディナーショー開催。12年「CDショップ大賞」ももいろクローバーZ、サカナクション等と共に全14作品にノミネートされる。bayFM、ラジオ日本番組パーソナリティを務める。

黒川泰子

さようなら平成、こんにちはは令和

皇室に言論の自由 ない室に言論の自由 を憂える



村井 実(むらい・みのる)
北海道日高村(現・日高町)番外地生まれ。昭和43年、早大卒。毎日新聞記者を経て昭和48年、時事通信記者。警視庁記者クラブを経て国会記者。田中角栄から自民党歴代首相取材。その間、ロッキード事件、田中金脈事件、リクルート事件を担当。宮内庁記者。昭和63年米国スタンフォード大学フーパー研究所入所。米国大統領のフォード、カーター、ブッシュ、さらにケネディー族や英国のエリザベス女王、サッチャー首相などインタビュー、単独会見。早大など3大学で教鞭をとる。「ジャパン・ツディ」編集長。

昨日(4月30日)で平成が終わり、今日から令和が始まる。今日から令和は令和元年となり、新しい5月1日がスタートした。

この日、昼間の銀座の街路灯は約10メートル間隔で真新しい日の丸の旗が並んでいる。銀座の空気が平和で新天皇にふさわしい。来年の東京オリンピックを控えて銀座街は外人観光客も多く、東京の国際都市がにじんでいる。

そこで私がなぜ、ここでペンを執ったかというところ、平成天皇が本日から「一般平民になったことを天に祝福したい。自由人だ!」古い話になるが、昭和45年ごろ(?)イザヤベンダサン著(著者は故・山本七平とごまかされながら仮面のまま死去)「日本人とユダヤ人」がベストセラーになった。

この時、私は「長嶋茂雄選手(巨人軍)が10年に1人の名選手とすれば『日本人とユダヤ人』は10年に1冊の名著」と絶賛した。

その中身は「日本人は水と自由は空気同様、タダだ」と思っている。世界の自由と諸国は戦争で血を流して獲得したもの。四海に囲まれた日本人は、それを分かっていない。

右に書いた当時の私の文は、人間の生き方として自由が最も大切(なものとして)と書かれていた。(注:だから、私は学生時代から共産・社会主義は問題外)そこから次の文が生まれる。

天皇といえども人間であり、自由でありたいのは自然である。美智子妃は青春

時代まで東京・品川区の正田家で育ち、一時的でも青春を謳歌している。

しかし、昨日までの平成天皇(さかのぼって歴代天皇もだが)は、カゴの中の鳥で皇居の周辺5キロの自由はあったが、それ以上の「自由」はなかった。このことは結婚を期に美智子妃も同様。

右の論に対して自由をなくしても「日本の皇室の名譽と權威を尊びたい」という反論もある。

しかし、もし、あなたが(読者)が天皇や皇太子の肩書きを付けられて「自由」がなくなったら、どうしますか。これほど「不自由な世界」はない。

これらの論をたててみると、「完全な自由」ではないが、私が以前から提案している「天皇にも定年制」というソフトランディングの案も悪くはない。

私が現役の国会記者時代、首相だった田中角栄、三木武夫、福田起夫時代だったころ、衆院、参院での通常国会や臨時国会には天皇が出席して開会宣言していた。その頃、日本共産党は「天皇制否定」で日共国会議員は全員その場を退場した。

しかし、いつころから日共議員の退場をやめたのか知らないが、最近の日共はおとなしく衆議の天皇の開会式に出席し、令和天皇の即位にも「歓迎のお言葉」を述べている。いつの間にか、私の時代とは変わった。

戦前、戦中の大陸侵略の時代は別として、日本は限りなく民族は単一民族であり、(一部に北海道アイヌ民族3万3千人)闘争、戦争らしきものなく、政治は自民であっても共産党であっても天皇制があるからまとまれる、という日本民族の自負がある。

だから、私も天皇制には反対ではない。しかし、天皇制には賛成するが、次世代の日本人に伝えておこう。天皇制は戦前のような「神とすること」には断固反対。敗戦後の日本国憲法の下のように「天皇は象徴制」を守るべし。

敗戦後の昭和、平成、令和の天皇は「天皇象徴制」を継いできた。私も先の3天皇に同調する。従って自民党が試案で出している「天皇元首制」には断固反対する。

元首とは「首相」、「大統領」と同様——と辞書で解説されている。

戦前、天皇を政治に組み入れていたことで、天皇を神とみなして昭和20年、日本は崩壊した。

その反省から平成天皇時代は前記したように日本に侵略されて犠牲者を出した国々に慰霊の旅をした。一方で日本国内での災害地に見舞いの旅に出たことなどが、国民から圧倒的に高い支持率を得ている。

美智子妃時代、美智子妃はバッシングで同妃は「声のない病氣」になられたことがあった。そのころ、宮内庁は皇室取材の自粛を申し出たことがあったが、マスコミは面白おかしく記事

× × ×

しかし、この異常な現象もみえる天皇パナゾイ的な昨今の国民の過熱的な支持は「いつか来た道」、戦前のような「現人神」(あらひとがみ)を生むのではないかと、私は別の意味で危惧する。

そろそろ日本のマスコミは熱狂的な皇室ニュース、記事は冷めて扱ってほしい。はしゃぎすぎだ。

そのはしゃぎすぎは、令和天皇が雅子妃と御成婚後、ほどほどに雅子妃が体調をこわし、正常な皇室行事にも参加できず、マスコミ、週刊誌はあらぬ理由をつけて雅子妃を追いこんだ。

あの病氣は統合失調症で、天候の悪い日に発症しやすく、季節でみれば12月から5月ごろに集中する。

そうしたことを知らないマスコミは雅子妃を追いこんだ。再び病氣を繰り返す恐れもあるので、マスコミは自重してあたたく見守ることが大切。

私は昭和天皇時代の末期、宮内庁記者も担当した。それまで政局と政策中心、人間関係の闘争現場で命に別状はないが、雅子妃の病状を追う記者、とりわけ週刊誌記者たちは、もう少し勉強してほしい。

皇室記事は何でも売れるという商魂がくましい背景があるから、何でも書く、という社会風潮に反対する。

それは皇室から訴えられ、というこぼれはないとみて真偽も確かめずに気楽にペンを走らせている場合が多い。

皇室といえども、プライベートな「人権」というものがある。今の日本社会は「皇室の個人の人権」というものを完全に無視している。

ジャーナリストのほしくれから見ると、残念である。皇室の言論に自由がない。マスコミは考えをべきだ。

令和元年(2019)5月1日 村井 実

※ジャパンツディ賛同者は下記銀行に入金して下さい。

▼振込み先・三菱UFJ銀行札幌支店
口座名「ジャパンツディ代表 村井 実」
店番 637 口座番号 3477659

週末利用は定住地利用に変化 東京から2時間の茨城県鉾田市大洋町で大自然満喫を!

東京から水戸へ約100キロメートル、約2時間で手軽に行ける茨城県鉾田市大洋町。現地は海拔約40～50メートルでほぼ平地。海まで約4～5キロメートルで、東京と気候変わらず。

土地1区画50～100坪で300万～500万円で販売。一度、現地を御覧下さい。電車でも車でも約2時間で当地に行けます。駅は鹿島電鉄大洋駅下車。徒歩20～30分。

緑と自然多く、人少なく、小動物のタヌキ、キツネ、リス、ウサギ、イタチなど沢山。たまにはフクロウ、トンビ、カッコウ、ウグイスなどが鳴き、カモメなど飛びかう。週末には都会から田舎に行って自然に返り、庭にミカン、ブドウ、カキ等を育て、畑でジャガイモ、サツマイモ、ヤマイモ等の収穫も楽しい。

紹介取次店・代理店 三愛ハウス(株) TEL: 048-853-9620
埼玉県さいたま市中央区鈴谷2の1215の5、埼京線、南与野駅西口北50m FAX: 048-853-7146

平成から「令和」の元号は 激動日本歴史の節目

昨年11月、東大の大沼保昭名誉教授(政治学)が死去(72)した。今年2月、東京・如水会館で「歴史の節目」と題して、大沼教授は生前、朝日新聞紙上や政治雑誌で「戦犯を合祀した靖国神社に首相は参拝すべきではない」と述べ、「こうした行動が中国の尖閣列島狙いを生み、日本の戦争への反省がない」とみられる」と力説していた。

これは私が以前から考えていたことと同様で、安倍首相の靖国参拝は「失政」である。

また、戦前からスタートした第2次大戦は、日本の侵略戦争でありながら敗戦後、70年たったから、あれは「自然災害」にでもあったような空気が終戦」という言葉でまかしている。これは世界歴史の中で通用しない。

敗戦を決定づけたポツダム宣言は、日本の無条件降伏であったことを日本人は忘れてはならない。

あの自民党議員の朝日です。3月25日の紙面で次のように述べている。

「どう振舞うべきか。日本を取り巻く外交・安全保障環境をみると、極めて困難な事態に直面している。最近ひしひしと感じている。(中略)松下政経塾副理事長の神威孝之・イマジンニア会長が『中国が強力な力を誇り、朝鮮半島が政治的に揺らぐ時期は、日本の歴史の変わり目となってきた』と指摘している(編集委員、佐藤武嗣)。

続けて同紙で「ある外務省幹部は誇張を交えて、日本の今後の選択肢を4つ挙げた。①米国に徹底的に

ひつらうの中国との関係を重視して尖閣諸島などを手放す②防衛費を5倍にする③核兵器を保有する④(以下略)。(同)

朝日は他者に語らせ、面接法にしているが、朝日はこれまでと同じようなアジア外交で済ませられないという緊張感がみなぎっている。

私の恩師、片岡鉄哉氏(スタンフォード大、フーバー研究所特別研究員)は平成19年、73歳でガン死去。

生前、「日本は、やがて米国が離れていく分、中国が日本の平和を守ってやる」と近づいてくる可能性がある。その時、日本国民はどうするのかね」と問いかけて死んでいった。トランプ米大統領の登場は、それから10年後だ。

本年1月30日の朝日、1頁分のインタビュー記事で経済同友会代表幹事小林喜光さん(72)は「敗北日本、生き残れるか(注)村井」「敗北日本」は平成の30年間を指している。そのタイトルも中身もすごい。

そのサブタイトルにして「技術は米中が腐敗、激変に立ち遅れ、挫折の自覚ない」「財界は権威失う、異文化と接し、進取の気性培え」―はショッキングな日本への直言であった。

小林氏は「内閣府調査(2018年6月)で75%の国民が今に満足している。心地よいゆでカエル状態(中略)、カエルはいずれ煮え上がるであろう」と。

財界が日本政府に丸め込められている「あやつり人形」の中で、小林発言は日本財界人として勇気のある発言であった。

そんな中で近年、日本のやっつけている永田町政治は、ウソ八百のモリ・カケからイカサマの厚生省統計問題ばかりに集中。日本国家の先きは全く霧の中。

戦前、日本人は政治、軍事、財界から国民まで「戦争長し」とする空気を作りあげて戦争に突入した。敗戦後の今、再び「ゆでカエル」状態なのに、声をあげない日本の空気をしかる。


前記したフーバー氏が私に片岡氏に誘われて入所した頃、フーバー氏には86名ほど研究員が在籍。うちノーベル賞受賞経済学者が5〜6人。

このようにアメリカの大学ではあちこちの大学に高度なシンクタンクを有してワシントンに政策を次々と提案。約30年前、この米国の大学の網の目のようなシンクタンク群を紹介して「日本にも主たる大学にシンクタンクを置いて政府へ提言すべし」と主張したが、政府や議院の官僚群は「官僚の多い議院が日本のシンクタンク群」と笑い飛ばして受け入れなかった。

だが、トランプ米大統領時代になってから国際問題が激変化して、国家公務員の下請けのような官僚が果たして、そうした大問題についていけるのか。あるいは日本の政治家が海外の主要な政治家、外交官と対等に討論を繰り返されるのか、心もとない。


時代は「令和時代」という新しい時代に入ります。新時代にふさわしいシンクタンクを設立して政策合戦をしてほしい。

平成31年(2019)3月25日 村井 実



日本での米国テキサス不動産販売実績 No.1
米国不動産 年平均4%上昇

1000万円で購入可能な米国テキサス州のワンルームマンション!
日本の金融機関を使って住宅ローンでも購入できる



無料デジタル漫画公開中!!

テキサス不動産の3大メリット 減価償却★インカムゲイン★キャピタルゲイン

私たちは、日本国内で米国テキサス州の不動産販売を行っており、過去4年間で約2500物件を販売した、米国不動産販売で断トツNo.1のリーディングカンパニーです。実は、日本をはじめとする世界中からの投資が集まっている地域が米国テキサス州であり、法人税や個人の所得税がほぼかからないことでも知られています。近年、数々の国内外大手企業が進出、トヨタの米国本社も2017年にテキサスへ移転し、JR東海の新幹線が4年後に開通予定と、今後さらなる人口増加と経済成長が見込まれています。実際にご購入されたお客様からは、大きな節税効果、安定した賃料収入、そして、将来性の高い資産価値に大変ご満足いただいています。米国不動産の取引ですが、弊社スタッフが100%日本語でご対応いたしますので、常に安心してお問い合わせいただくことができます。

セミナープログラム

1. 会社概要&プロフィール紹介
2. 日本の現状、未来像、米国との現状と日米の比較
3. 成功者の共通思考、投資脳マネーテスト
4. 米国テキサス州の魅力：動画
5. 日本人の方だけ得するテキサス州不動産で儲かる仕組み DIC とは？
6. マイテキサス不動産：物件紹介
7. 住宅ローンについて
8. 購入、管理・売却まで

※プログラムの内容は変更される場合もあります。

参加者特典 参加者全員にプレゼント!

日本にいながら米国の不動産が購入できる！
テキサスで始めるワンルームマンション投資
ダイヤモンド社/著者：ニック市丸



お食事も食べれてさらにギフトカードもプレゼント!



※特典があるのは日本支社主催のセミナーになりますのでご注意ください。

お申込みFAX番号 ☎ 03-5614-9878

WEBお申込みも可能→



弊社担当	大森	<p>株式会社リーバンスコーポレーション 紹介取次店・代理店 三愛ハウス株式会社</p> <p>フリーダイヤル：0120-57-1093 (携帯可)</p> <p>TEL：03-5614-9877 (代表) FAX：03-5614-9878</p> <p>✉ info@mytexasfudosan.com ④ www.mytexasfudosan.com</p> <p>東京都中央区日本橋箱崎町20-1 アンソレイエ・オオタ4階</p>
取次・代理店担当		

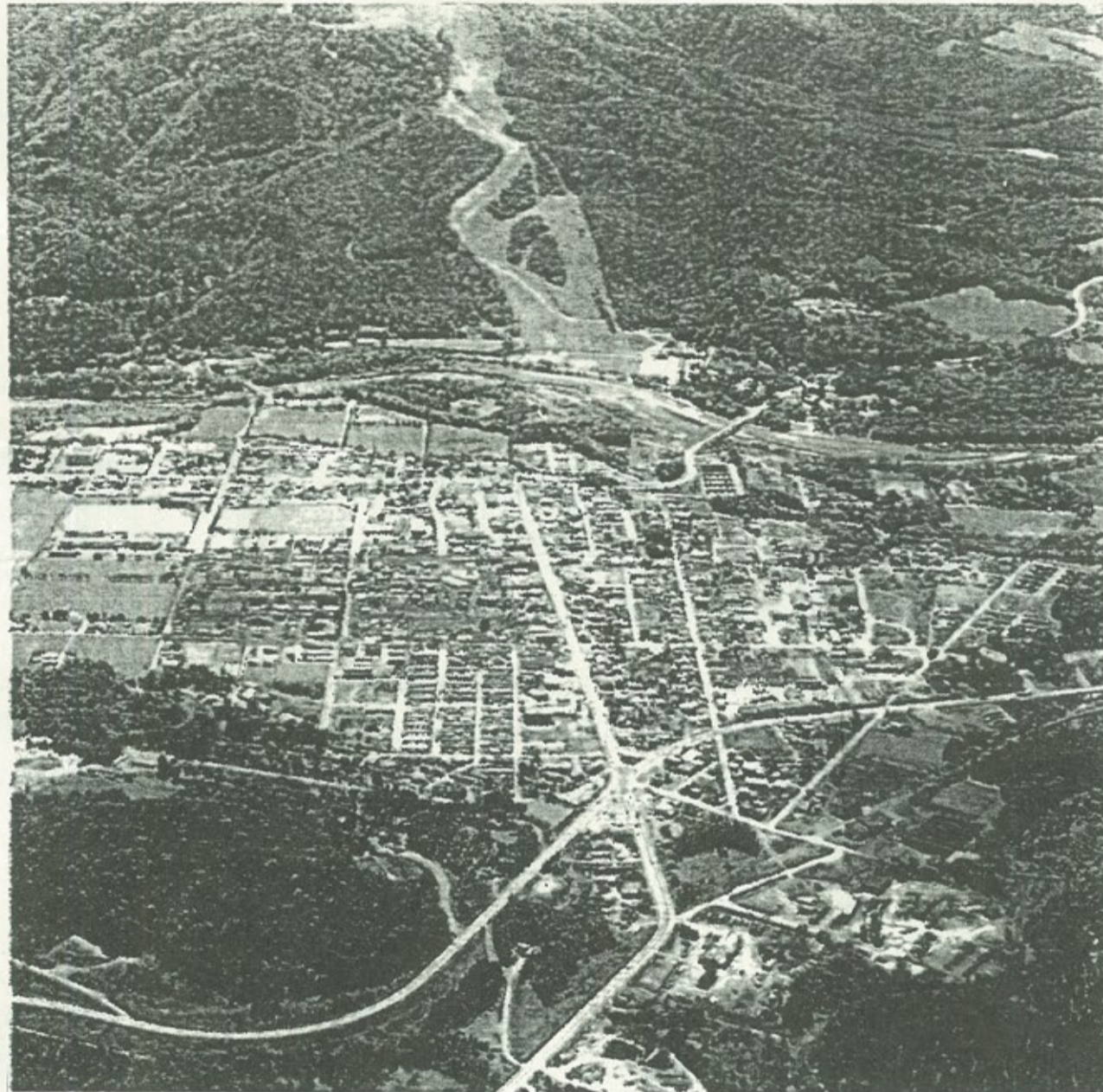
JAPAN TODAY

2019年 MONTHLY 5,6,7月号

新聞は時代を映す鏡である！(ジャパン・ツディは全国47都道府県庁、地方自治体に配布しています)
過去の歴史を学ばない者は、再び未来の歴史を誤るということを日本国民は知らなければならない

ふもと 日高山脈の麓に土地2万5000坪

「コンドミニウム・ホテル」 や「セカンドハウス」に



写真説明 上部3分の1、山部分は日高国際スキー場(頂上までの山部分はカットされているが全長3・8KM)。スキー場の下は沙流川が左右に横断。中央に縦に走る太い道は国道237号。国道中央から左側、村井家の所有地。

北海道の日高山脈に近い日高町(沙流郡日高町字日高)が私、村井(当新聞編集長)の生まれ故郷。町の中心街に村井家は約2万5000坪の土地を所有。個人住宅地として42軒を建て、また3000坪を空地で遊ばせている。

私の幼少時代は、村井家の西隣に広瀬一族と今井一族が広大な土地を所有していた。これが日高町での御3家だった。

しかし、今井一族の土地は昭和30年代に消え、広瀬一族の土地は昭和40年代から50年代にかけて消えていった。

残った我、村井家の土地は農場だったが、時代と共に昭和40年代から田畑が住宅地に変身。そこはやがて自然に街の中心地となった。

その昔、明治時代に祖父母が富山県から北海道開拓を目指して、船で小樽に上陸。そこから更に山奥へと入り、日高山脈の麓(ふもと)にたどり着き、アイヌ人の多い今の日高町(のちの日高町)で農場を開いた。

今から10年前に隣の平取町(ひらとりちょう)を越えて、太平洋岸の日高町別町(人口、1万人)と飛び石合併したが、町名は従来通りの日高町(現在人口は日高町別町と合わせて1万2000人)。

当時、町には高校がなかった。私は中3から小樽の親戚に下宿して4年間、小樽生活。

高卒後、小樽から東京へ出て「東京出稼ぎ」。農場を継がそうとした親父から猛烈に進学を反対されて、やむなく東京に裸一貫で脱走！下町で新聞少年のスタート。

日本はやがて経済成長期に入り、日高町にも高度経済の波が押し寄せ、「日高国際スキー場」が完成。夜間スキーOKなので、周辺はじめ多方面から観光客が集まった。

日高山脈は世界一高いエベレスト山と同様、海がせり上がって誕生した山脈。近年の気象は、日本列島が亜熱帯列島に変化し、夏の本州は猛暑すぎて、日常は不快すぎる。

これを受けて快適な生活を送られると、地元民は自慢する。「北海道の日高は6月の梅雨(しゆ)なくて、8、9、10月(例年10月20ごろ初雪)までは気象に暮らせる」と。

日高町は海拔が78メートルの台地。この快適な生活を保障する我が故郷・日高は、「定住」でも「期間限定定住」でも「コンドミニウム方式の低額の一軒間との共同会員」でも可。ぜひ、この北海道日高町の大自然を利用して下さい。

村井家から1000メートル近くに日高国際スキー場があり、スキー場の下には日高山脈源流から沙流川(さりゅうがわ)の清流が流れる。沙流川は住民が住む台地から50メートル低く、雨の洪水はない。

私たちが小さい頃から遊んできた母なる沙流川は、人生をいやしくれまじした。日高山脈から流れてくる石は「青色」で名が知られ、沙流川石は「産石」としても有名。

日高町で生活(セカンドハウス)を送りたい方は

JAPAN TODAY <代表・主筆 村井 実からのメッセージ>
国民の知る権利は民主主義の原則。

政治は生活そのもの。上流を見ず下流を見て歩け。▼日本の政治ジャーナリズムは権力に迎合した付度記者が多すぎることにレッドカード！▼権力には右でも左でも迎合せず、建て前を排した本音の論陣を張れ！▼「国防」と「財政」は車の両輪で国家の基本。島国の日本は国防論議に関心が薄く、一方で国民が稼いだ税金のムダ遣いに無頓着すぎる。▼ジャーナリズムとは飼いやられた犬はダメ。番犬でなければならぬ！▼記者業とは死ぬまで時代を追いかける「触覚」の勝負！

村井(K・D=07001
6640120334=東京
在住)まで御連絡下さい。
相談に応じます。

交通は数年前に千歳空港
↓帯広↓釧路ルートの高速度
道路が完成したため、車では
千歳(1時間)⇄日高(1時間)まで
1時間半。占冠から日
高町まで30分。
列車は千歳空港⇄南千歳
駅(乗り換え)⇄占冠駅下
車まで1時間半。さらにバ
スで日高町まで30分。